

別添3：社会実験一覧表

各市町村における社会実験の詳細及び実験の対象とする新たな整備手法に関する詳細な内容については、「下水道の社会実験のホームページ」(http://www.mifukyu_qp.jiwet.jp/)を参照願います。

都道府県	市町村	処理区	対象地区	新たな整備手法の導入の背景(地域特性)	実験対象とする新たな整備手法と導入効果		概ねの規模	その他のポイント
北海道	苫前町	古丹別処理区	古丹別地区	<ul style="list-style-type: none"> 面整備が概成している苫前地区から約7km離れている。 人口減少傾向が著しく、とままえ下水浄化センターからの長距離の管きよ整備(約5km)により供用するにはリスクが大きい。 当該地区内においても、流雪溝が整備された道路等が軟弱地盤上に縦横に走っていることから、これらの道路を横断した管きよ整備を行わずに、処理区をより細分化した方が早期の供用が可能になる。 	<ul style="list-style-type: none"> 工場製作型極小規模処理施設(接触酸化型) 	<ul style="list-style-type: none"> 低コストで早期の設置が可能となるとともに、人口動向の変化による流量変動に柔軟に対応出来る。 	約180m ³ /d 約120m ³ /d (計画日最大)	早期に成果を得るためにも早期の普及促進が必要であり、地域住民による普及促進のためのPRを展開。
岩手県	二戸市	浄法寺処理区	浄法寺地区	<ul style="list-style-type: none"> 家屋密集地区であり浄化槽の設置スペースの確保が困難である。 浄化槽を設置している箇所であっても、特に夏季において、浄化槽の放流水の臭いに関する苦情が周辺住民から多く寄せられており、下水道による集合処理を要望する声が高まっている。 家屋背面のトイレが家屋正面の公道面よりかなり低く設置されており、公道下に管きよを埋設すると土被りが大きくなり建設コストの増大が懸念される。 人口減少傾向が顕著である。 	<ul style="list-style-type: none"> 管きよの露出配管 工場製作型極小規模処理施設(膜分離型、詳細は検討中) 	<ul style="list-style-type: none"> 埋設工事が不要であるため低コストで早期の整備が可能となるとともに、民地を活用した比較的簡易な設置、改築が可能。 低コストで早期の設置が可能となるとともに、人口動向の変化による流量変動に柔軟に対応出来る。 	150mm L 450m 約300m ³ /d (計画日最大)	民有地を管きよが占有すること及び管きよの維持管理上の取り決めについて地域住民の協力を依頼するとともに、露出配管による周辺への汚水流下音や下水臭及び景観上の影響につき、住民モニターとしての地域住民の協力を依頼。
福島県	会津坂下町	坂下中央処理区	坂下地区	<ul style="list-style-type: none"> 家屋密集地区であり浄化槽の設置スペースの確保が困難である。 地下水位が高い地区に国道及び主要な県道が縦横に走っていることから、道路下を横断する管きよ整備は、土被りが大きくなることから建設コストが増大する。 浸水被害が頻発していたことから都市下水路による雨水対策を先行しており、管きよの露出配管に利用可能な水路空間が多く存在する。 	<ul style="list-style-type: none"> 管きよの露出配管 	<ul style="list-style-type: none"> 埋設工事が不要であるため低コストで早期の整備が可能となるとともに、既存の水路空間を活用した比較的簡易な設置、改築が可能。 マンホールポンプ採用と比べ電気代・メンテナンスに伴う維持管理が不要となり、維持管理費の大幅な削減が期待出来る。 	150mm L 600m	露出配管による周辺への汚水流下音や下水臭及び景観上の影響につき、住民モニターとしての地域住民の協力を依頼。
静岡県	浜松市	馬込第1-1処理分区	天竜地区	<ul style="list-style-type: none"> 山間地域であることから、狭小道路が多く重機を使つての埋戻しが(締め固め)が困難であり、人力施工による非効率(コスト高・工期長期化)な整備となる。 	<ul style="list-style-type: none"> 流動化処理土の管きよ施工への利用 	<ul style="list-style-type: none"> 流動化処理土の流動性に優れた利点を生かし民家駐車場等へポンプ車を設置することで埋戻し作業を行うことが可能(締め固め不要)となり、低コスト・工期短縮の施工が可能となる。 発生土を流動化処理土として利用すること等により発生土処分を抑制出来る。 	150~200mm L 200m	発生土を再利用することにより、廃棄物を抑制し、循環型社会の構築に寄与。
		雄略第1処理分区	雄略地区	<ul style="list-style-type: none"> 軟弱地盤であることから、舗装後の路面沈下、管きよのたるみが懸念される。 	<ul style="list-style-type: none"> 流動化処理土の管きよ施工への利用 	<ul style="list-style-type: none"> 自硬性があり、打設後の収縮が小さいこと等により沈下等が抑制されるとともに、長期間で考えると舗装後の路面沈下も無く舗装維持管理費(修繕費)の縮減も期待される。 発生土を流動化処理土として利用すること等により発生土処分を抑制出来る。 	150~200mm L 900m	発生土を再利用することにより、廃棄物を抑制し、循環型社会の構築に寄与。 舗装後の路面沈下、わだちが出来にくく長期間の道路保全に寄与。
愛知県	豊田市	足助処理区(仮称)	足助地区	<ul style="list-style-type: none"> 家屋密集地区であり浄化槽の設置スペースの確保が困難である。 公道に接することなく河川側にしか接していない家屋が多く、公道下に管きよを埋設する手法では整備が困難である。 	<ul style="list-style-type: none"> 管きよの露出配管 	<ul style="list-style-type: none"> 埋設工事が不要であるため低コストで早期の整備が可能となるとともに、河川空間を活用した比較的簡易な設置、改築が可能。 	150mm L 200m	露出配管による周辺への汚水流下音や下水臭及び景観上の影響につき、住民モニターとしての地域住民の協力を依頼。
	岡崎市	岡崎北部処理分区	岩津町地区	<ul style="list-style-type: none"> 丘陵の斜面に位置する住宅地において、急勾配、曲線の道路が多く、勾配を含めた線形が変化する地点にマンホールを設置する手法では、土被りが大きくなる或いはマンホールの数が多くなることから、建設コストの増大が懸念される。 	<ul style="list-style-type: none"> 道路線形に合わせた施工 	<ul style="list-style-type: none"> 道路線形に合わせ、管きよの埋設深を浅くするとともに、勾配変化点、曲線部に曲管を連続的に採用しマンホールの数を削減することにより低コストで早期の整備が可能。 	200mm L 1,000m	浅層埋設及び曲管を採用しマンホールを省略することにより発生土抑制に寄与。
	半田市	乙川処理分区	乙川北部地区	<ul style="list-style-type: none"> 大規模な水路等地下埋設物が多いため、これらを下越して管きよを深く埋設すれば、推進工法またはマンホールポンプの使用を採用せざるを得ないことから、建設コスト・維持管理費の増大が懸念される。 残土の受け入れ箇所が少なく、遠方となることから、残土処分が困難となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 改良型伏越しの連続的採用 発生土の管きよ基礎への利用 	<ul style="list-style-type: none"> 下流側において開削工法を採用できることから、従来の推進工法、マンホールポンプと比べ低コストの整備が可能。 マンホールポンプ採用と比べ電気代・メンテナンスに伴う維持管理が不要となり、維持管理費の大幅な削減が期待出来る。 発生土処分量の抑制及び発生土再利用により低コストの整備が可能。 	150mm L 2,000m	発生土を再利用することにより、廃棄物を抑制し、循環型社会の構築に寄与。
		阿原処理分区	阿原地区	<ul style="list-style-type: none"> 急勾配、曲線の道路が多く、勾配を含めた線形が変化する地点にマンホールを設置する手法では、土被りが大きくなる或いはマンホールの数が多くなることから、建設コストの増大が懸念される。 残土の受け入れ箇所が少なく、遠方となることから、残土処分が困難となっている。 道路が狭小なため土砂の搬出入(掘削土と埋戻土)が困難である。 	<ul style="list-style-type: none"> 道路線形に合わせた施工 発生土の管きよ基礎への利用 	<ul style="list-style-type: none"> 道路線形に合わせ、管きよの埋設深を浅くするとともに、勾配変化点、曲線部に曲管を連続的に採用しマンホールの数を削減することにより低コストで早期の整備が可能。 発生土処分量の抑制及び発生土再利用により低コストの整備が可能。 	150mm L 1,300m	浅層埋設及び曲管を採用しマンホールを省略することにより発生土抑制に寄与。 発生土を再利用することにより、廃棄物を抑制し、循環型社会の構築に寄与。
北浦処理分区	北浦地区	<ul style="list-style-type: none"> 残土の受け入れ箇所が少なく、遠方となることから、残土処分が困難となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 発生土の管きよ基礎への利用 	<ul style="list-style-type: none"> 発生土処分量の抑制及び発生土再利用により低コストの整備が可能。 	150mm L 300m	発生土を再利用することにより、廃棄物を抑制し、循環型社会の構築に寄与。		
岡山県	岡山市	児島湖流域下水道関連笹ヶ瀬川左岸処理分区	橋津地区	<ul style="list-style-type: none"> 急勾配、曲線の道路が多く、勾配を含めた線形が変化する地点にマンホールを設置する手法では、土被りが大きくなる或いはマンホールの数が多くなることから、建設コストの増大が懸念される。 	<ul style="list-style-type: none"> 道路線形に合わせた施工 	<ul style="list-style-type: none"> 道路線形に合わせ、管きよの埋設深を浅くするとともに、曲線部に曲管を連続的に採用しマンホールの数を削減することにより低コストで早期の整備が可能。 	150~200mm L 1,000m	浅層埋設及び曲管を採用しマンホールを省略することにより発生土抑制に寄与。
熊本県	益城町	飯野処理区	飯野地区	<ul style="list-style-type: none"> 起伏が激しい地形であり、河川や排水路が多いことに加え、地下水位が高く軟弱地盤であること等から、管きよ埋設に係る建設コストの増大が懸念される。 	<ul style="list-style-type: none"> 管きよの露出配管 	<ul style="list-style-type: none"> 埋設工事が不要であるため低コストで早期の整備が可能となるとともに、既存の水路空間を活用した比較的簡易な設置、改築が可能。 マンホールポンプ採用と比べ電気代・メンテナンスに伴う維持管理が不要となり、維持管理費の大幅な削減が期待出来る。 	100~150mm L 400m	露出配管による周辺への汚水流下音や下水臭及び景観上の影響につき、住民モニターとしての地域住民の協力を依頼。